

大地から学ぶ越路の

おいたち



2019. 10. 13 信濃川の増水と今井町・大宮町の浸水被害

上：信濃川長生橋上流（13日 14:50）右下：大宮町浸水状況（13日 15:00）…佐野迪則氏撮影
左下：今井町の浸水被害（13日 16:20）

【主な内容】

■令和2年度大地の会総会議案

- ・令和元年度活動報告・令和2年度活動計画案
- ・令和元年度決算報告・令和2年度予算案

■2019年台風19号災害に伴った浄土川（太田川支流）の溢水災害について …… 飯川健勝

■「釜沢石の加工を家業として」-石工の思いで話し- …… 林 敏雄

■渡辺文雄さんが旅立って… …… 渡辺秀男

- ・第1号議案：令和元年度活動報告
- ・第2号議案：令和元年度決算報告・監査報告
- ・第3号議案：令和2年度活動計画案
- ・第4号議案：令和2年度予算案

(第1号議案)

大地の会令和元年度活動報告

1 総会・記念講演会

日時：令和元年7月19日（金）19:00～21:00

会場：長岡市越路総合福祉センター

講演：「長岡の縄文・世界へ」

講師：長岡市立科学博物館 主査 新田康則 氏



総会記念講演会

2 会報「おいたち」の発行

97号（6月30日発行） 「長岡の大地」出版記念講演会報告、春の野外観察会報告、総会資料 他

98号（9月20日発行） 総会記念講演会報告、令和元年度地学講座案内、子供向け岩石加工講座報告 他

99号（12月20日発行） 地学講座報告 第1回 第2回、越路文化展出張報告 他

100号（3月20日発行） 地学講座報告第3回、第4回、大地の会活動の経緯、2020年度活動予定 他

3 地学講座の開催

テーマ 「越路の地に見出された大規模ガス田」ー石油・天然ガスの探鉱・開発事業と南長岡ガス田の概要ー

- ・第1回 令和元年 9月27日（金） 参加者：57名

講演「石油/天然ガス鉱床の成り立ちと探鉱手法のあらまし」-特に火山岩貯留岩の特殊性について-

講師：国際石油開発帝石株式会社 国内E&P事業本部

探鉱開発ユニット副ジェネラルマネージャー 小林紀彦氏

- ・第2回 令和元年 10月18日（金） 参加者：51名

講演「天然ガス開発の道のり」

講師：国際石油開発帝石株式会社 国内E&P事業本部

探鉱開発ユニット ジェネラルマネージャー 杉山広巳氏

- ・第3回 令和元年 10月25日（金） 参加者：46名

講演「石油・天然ガスの生産」

講師：国際石油開発帝石株式会社 国内E&P事業本部

生産ユニット生産技術グループマネージャー 村上勇二氏

- ・第4回 令和元年 11月10日（日） 参加者：46名

野外観察会「石油鉱業の上流～下流施設をめぐる」

越路原プラント、直江津LNG基地、INPEX ミュージアム、
パイプライン監視センター

講師：国際石油開発帝石株式会社 各所見学担当者様



地学講座：直江津LNG基地



春巡検：新津油田

4 諸活動

○春巡検 令和元年 5月26日（日）

「史跡・新津油田金津鉱場跡を訪ねる」 参加者 34名

○子ども向け岩石加工講座（成出管理棟）令和元年8月10日（土）

参加者：小中学生11名、保護者4名、指導員4名

○成出露頭管理・情報発信

（草刈り 6月2日、7月21日、9月8日）



岩石加工講座

○幸齢者教室講師派遣（渡辺文雄顧問，飯川健勝顧問）

○他団体との交流・参加

糸魚川フォッサマグナミュージアム友の会

東山油田（史跡・産業遺産）保存会 新津石油の世界館友の会

中越防災安全推進機構 信濃川大河津資料館友の会

NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 他

○その他

越路文化展：立体地図出展



6 役員会等

○定例役員会 毎月1回（第2火曜日）

（第3号議案）

大地の会令和2年度活動計画（案）

※今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で活動の実施が見通せない状況にありますが，感染の状況等を見極めながら詳細計画を詰めてご案内していくこととしています。ご協力をお願いします。

1 総会

日時／場所：令和2年7月31日（金）19:00～21:00 越路総合福祉センター

新型コロナウイルス感染拡大の影響で最少人数での開催とする。

2 会報「おいたち」の発行

年 4回 の発行を予定 （ 6月 9月 12月 3月 ）

3 地学講座の開催

テーマ：大地を構成する岩石などの身近な地質や2019. 10 台風19号による信濃川の出水による災害などについて検討中です。

日程

第1回 講演 令和2年9月25日（金）19:00～

第2回 講演 令和2年10月2日（金）19:00～

第3回 野外観察会 令和2年10月18日（日）9:00～ 越路支所集合

第4回 講演 令和2年10月30日（日）19:00～

4 諸活動

○春巡検 令和2年 8月20日（日）を予定

「村上・笹川流れ方面」

○子ども向け岩石加工講座（成出管理棟） 令和2年8月6日（土）を予定

○成出露頭管理・情報発信（草刈り 6月6日，7月26日，9月5日を予定）

○他団体との交流・参加

糸魚川フォッサマグナミュージアム友の会，東山油田（史跡・産業遺産）保存会，新津石油の世界館友の会，

中越防災安全推進機構，信濃川大河津資料館友の会，NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 他

○その他

5 役員会等

○定例役員会 毎月1回（第2火曜日）

令和元年度 大地の会決算報告

(1) 収入の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額	増減	備 考
会費	410,000	390,000	-20,000	個人 80,000円 法人 310,000円
受講費	120,000	145,000	25,000	春巡検、秋地学講座
受託料	174,000	170,000	-4,000	地学講座、成出露頭管理、幸齢者教室
補助金	0	0	0	
繰入金	0	0	0	
寄付金	10,000	0	-10,000	
販売収入	0	0	0	
雑収入	38	2	-36	預金利子
繰越金	145,162	145,162	0	
合計	859,200	850,164	-9,036	

(2) 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備 考
会議費	50,000	33,635	-16,365	総会、記念講演会、会議会場費等
活動費	705,000	535,542	-169,458	春巡検、秋地学講座、会報、子供地学講座、成出露頭管理、幸齢者教室
消耗品費	30,000	15,172	-14,828	封筒、用紙他
通信費	60,000	44,781	-15,219	会報・案内等送料
雑費	4,200	0	-4,200	
予備費	10,000	0	-10,000	
合計	859,200	629,130	-230,070	

(収入) 850,164円 - (支出) 629,130円 = (次年度繰越) 221,034円

令和元年度 特別会計決算報告

(1) 収入の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額	増減	備 考
マップ・体験集等販売	3,000	300	-2,700	マップ3
飛び出す地形販売	10,000	1,500	-8,500	3冊
地学ガイド販売	150,000	168,760	18,760	166冊
雑収入	2	2	0	預金利子
繰越金	183,498	183,498	0	
合計	346,500	354,060	7,560	

(2) 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備 考
一般会計繰出金	0	0	0	
新規活動準備金・備品購入費	326,500	0	-326,500	
通信費	10,000	1,080	-8,920	本送料
雑費	10,000	0	-10,000	販売経費等
合計	346,500	1,080	-345,420	

(収入) 354,060円 - (支出) 1,080円 = (次年度繰越) 352,980円

監査報告 令和元年度における収支決算に関する証拠書類と諸帳簿について監査したところ、その内容が適正であったことを認めます。

令和2年 5月 21 日

監事 内山 隆

平澤 聡

第4号議案

令和2年度 大地の会予算(案)

(1) 収入の部 (単位:円)

項目	R2予算額	R1予算額	増減	備 考
会 費	390,000	410,000	-20,000	個人 80,000円 法人 310,000円
受講費	100,000	120,000	-20,000	春巡検、秋地学講座
受託料	150,000	174,000	-24,000	地学講座、成出露頭管理
寄付金	10,000	10,000	0	
雑収入	66	38	28	預金利子
繰越金	221,034	145,162	75,872	
合 計	871,100	859,200	11,900	

(2) 支出の部

項目	R2予算額	R1予算額	増減	備 考
会議費	50,000	50,000	0	総会、記念講演会、会議会場費
活動費	711,100	705,000	6,100	春巡検、秋地学講座、会報、子ども地学講座、立体写 真展、その他
消耗品費	30,000	30,000	0	封筒、用紙他
通信費	60,000	60,000	0	会報・案内等送料
雑 費	10,000	4,200	5,800	
予備費	10,000	10,000	0	
合 計	871,100	859,200	11,900	

令和2年度 特別会計予算(案)

(1) 収入の部 (単位:円)

項 目	R2予算額	R1予算額	増減	備 考
マップ・体験集等販売	3,000	3,000	0	マップ、その他
飛び出す地形販売	10,000	10,000	0	
地学ガイド販売	100,000	150,000	-50,000	
雑収入	20	2	18	預金利子
繰越金	352,980	183,498	169,482	
合 計	466,000	346,500	119,500	

(2) 支出の部

項 目	R2予算額	R1予算額	増減	備 考
一般会計繰出金	0	0	0	
新規活動準備金・備品購入費等	446,000	326,500	119,500	
通信費	10,000	10,000	0	
雑 費	10,000	10,000	0	販売経費等
合 計	466,000	346,500	119,500	

2019 年台風 19 号災害に伴った浄土川(太田川支流)の溢流災害について

大地の会顧問 飯川健勝

2019 年 10 月, 台風 19 号関連で罹災された方がたには心からお見舞い申し上げます。

台風 19 号は 10 月 12 日 19:00 ころ伊豆半島に上陸して関東を縦断し、福島県沖へ遠のいていった。各地で甚大な豪雨災害をもたらした台風だったが、千曲川の破堤など信濃川の氾濫・増水に伴う被害も著しかった。ここでは長岡市今井・大宮地域(図 1)の罹災について述べる。

1 信濃川からの逆流による冠水

10/13(日) 信濃川から逆流した太田川の水位は、13~14 時ころピークとなり、13 時ころには今宮橋で逆流が確認されていた(長岡市危機管理 2019)。

堤防の高さは信濃川とほぼ同じだが、なぜか太田川の左岸に合流する一級河川浄土川には水門も堤防もないため、逆流が発生すれば浄土川に押し寄せ、溢流するのは自然の成り行きというものである。過去には溢流・浸水のたびに、改善の陳情・申請してきた経緯があるものの放置されてきた。太田川の右岸堤(市街地側)と比較すれば、行政の対応の差は歴然としており、「想定外」は通用しないところである。

図 1 に見られるとおり、溢流は浄土川左岸域の大宮町を孤立させ、田畑は冠水した。右岸域の今井では、道路はほぼ全域冠水した。床下・床上浸水は今井 1 丁目の浄土川沿いと 2・3 丁目に広がり、浸水被害は床上浸水 11 棟、床下浸水 115 棟を数えた(長岡市危機管理 2019)。2011 年の新潟・福島豪雨(床下浸水 4 棟)と比較して桁違いの被害だった。

3 丁目の太田川左岸堤防付近の地盤が最も低く、押し寄せる浄土川からの溢流は 9 台のポンプがフル稼働で太田川に放流されたものの、太田川の流水は浄土川河口から逆流し今井町へ「環流している現実」に、ただ呆れるほかはなかった。信濃川の水位の低下を待つしか術はなかったのである。16 時ころようやく低下し始め、上空には青空が広がっていた。

私の家屋(今井 2)は、数 cm の床下浸水だったが、その日のうちに滞水は引いていた。信濃川本川からの逆流は、いわゆる「上水(ウミズ)」が溢流したものと推定されている。新潟・福島豪雨(2011 年)と違い、太田川・浄土川からの土砂の流入はなかったのである。そのため罹災地にはほとんど土砂の堆積がなかったことは不幸中の幸いであった。



図 1 信濃川からの逆流と浄土川の溢流。添付写真は今井から浄土川(繁った草藪)をこえて大宮・田畑を冠水した溢流と今井町の道路を避難する車。

2 ここは太田川の新堤防が築かれたところ・・・

それまでも小規模な浄土川の溢水はあったが、意識が低かったこともあって、恥ずかしながら私自身大きな問題としてとらえていなかった。今井・大宮の旧村の集落は、自然堤防上にあることは当初から理解していたが、今回ばかりは「何かおかしい」、そして初めて「罹災地は遊水地かも・・・」というイメージが沸き起こってきた。

40 数年ほど前のこと。今井町の土地購入に際し、当然のことながら情報収集に努めた。「遊水地」という印象は希薄だったが、太田川の改修が進められていたことが大きかった。「土地整理組合」の「契約文書類」には、「排水施設完備・・・転用に伴う被害はありません」が記されていたこと。隣接の高齢者の「以前は水が来て流木拾いをしたが、これからは太田川

堤防が高くなったので水の心配はなくなった」。これらに限っていえば、いわば安心材料ではあった。

3 長岡市(河川港湾課)・振興局(治水課)の対応

2019年11月長岡市の「水害支援制度説明会」があった。また2020年2月振興局治水課による「浄土川改修」計画の具体的な説明会があった(事業は国交省のため、新潟県では申請段階)。

一方、私はT氏の紹介を得て、同伴で大熊 孝新大名誉教授(河川工学)に面談の機会を得ていた。また資料・文献も紹介していただいた。大熊氏は以前大地の会で講演を引き受けていただいた方である。

これらの経緯を踏まえて、私見を述べてみたいと思う。振興局・長岡市とも主な主張は次の3点である。①(逆流防止水門より)河川改修・築堤が先であること ②堤防と逆流防止水門の同時並行は、財政的ロスが多すぎる ③完成には土地買収も絡むので数年から10年にかかる。

ここでは、私の質問内容から3点に絞って次に述べることにするが、いずれも納得のいく回答は得られなかった。

1. 市・県とも「2011年以来2回の洪水」を繰り返すおられるが、当事者であれば4回あったことを知らないはずはない(図2)。自然災害が頻発している折から、10年後の完成までに洪水は十分に考えられる。水門・ポンプを並行して進めてほしい。

2. 「堤防と水門の同時並行建設はロスが多すぎる」とのことだが、なぜか、堤防が完成すれば、水門は不要になるからか。

3. 太田川のショートカット、堤防のかさ上げをしながら浄土川についてはなぜ放置したのか。企画担当・設計者が気づかないはずがない。

そこには、私を含めて遊水地とは知らされずに購入した多くの人たちがいたことになる。前述の大熊氏の著書に書かれている図式「・・・行政も、設計者も、買い手もそのことに無関心で、いわば【自然バカ】に陥っている。・・・(大熊2019, 2019年10月台風19号に学ぶ)」が、みえてくる。

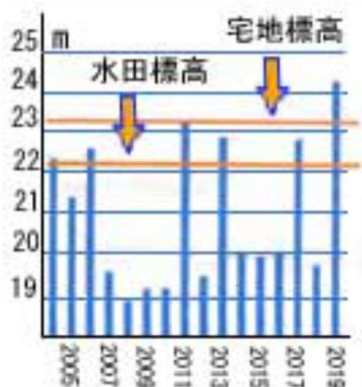


図2 太田川・浄土川合流点最高の水位(長岡水位観測所の年最高水位をもとに)【武本氏提供】

4 あらためて今井・大宮地域の地形を読み解く

図3は地形の標高を3次的色彩で表現したものである。近くに標高を示す地点があれば、それを基点にして凡例に標高を書き入れることによって地形の凹凸を立体的にとらえることができる。

太田川の河口付近の信濃川の堤防の標高は約28mである。また太田川の堤防はやや低くなっていることがわかるが、輪でくくったところでは、ちょうど浄土川河口付近200mほどの間太田川の右岸堤防が1mほど低まっていることがわかる。現地確認もしたが、浄土川の逆流もさることながら、ここから溢流したら長岡市街地はひとたまりもない。この設計・施工にどんな背景があるのだろうか。河川・治水担当者は承知しているのだろうか。2月の振興局の説明会では指摘しておいた。

図を概観すると浄土川・太田川合流付近以北はかつて文字通り低湿地であったことがわかる。太田川の築堤によって市街地は護られてきた。しかしその左岸堤には大きな忘れ物がそのまま放置されてきたのではないだろうか。

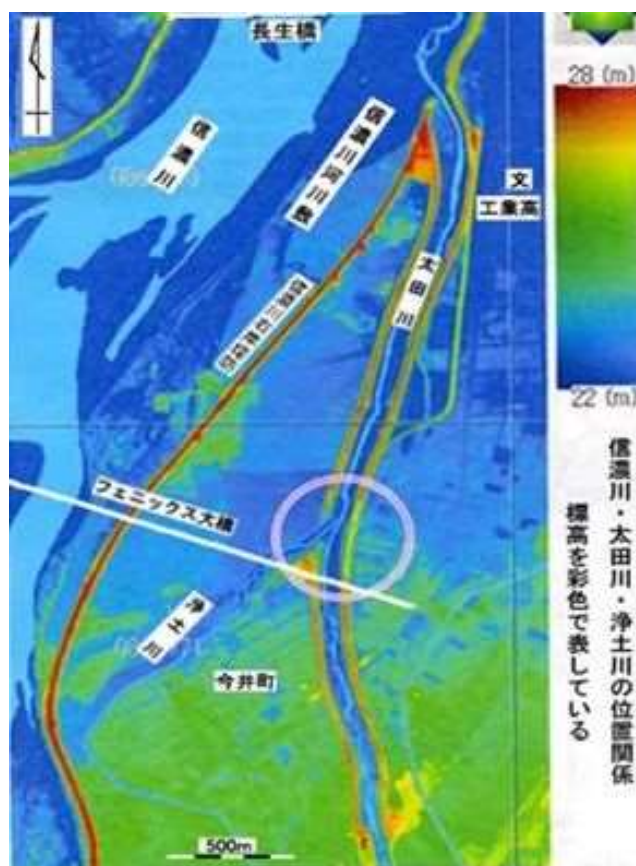


図3 信濃川・太田川・浄土川の標高・位置関係(デジタルマップ 武本氏提供)

「釜沢石の加工を家業として」 -石工の思いで話し-

林石材店

代表 林 敏雄

*はじめに

越路大地の会の皆さんこんにちは、長岡市村松町で石材業を営む林と申します。岩石にさほど詳しいわけではなく家業を継いで 45 年目を迎えました。器用で無かった事で仕事も飽きず今日迄やれてきました。こんな私ですが釜沢石の御案内をさせていただきます。

固い話になりますが鉱物学的には「輝石角閃石安産岩(キセキカクセンセキアンザンガン)」と分類され色は灰白色です。この中越地区では身近な石材です。お墓参りをする時ちょっと黒ずんで苔が付いている、それらはほぼ釜沢石です。長岡市内東山に連なる峰々の全域で見かける岩石で古くから釜沢町、村松町を拠点に採掘がされてきました。

長岡市史双書 No26「長岡の石造物」の文書によりますと 1993 年頃に市内墓所調査結果は墓碑脇面の建立年が寛文 9 年(1669 年)に建立された墓石が長岡市日赤町「本妙寺」あったそうです。石が 300 年も皆さんにお参りさせていただければ作製した石工さんも職人冥利に尽きるのではないかとこの調査結果を読んだとき思いました。皆さんに見て頂き長きに渡り使われてこそ石も人に加工された事に感謝してくれているのではないかと考えております。

此の文書に当家の記述もありました。私から 5 代前の屋号久助(キウスケ)の名義で採掘の許可を願い出ています、連名で母方の実家五太夫(ゴダウ)の名前もありました。当初は一代限りの約束だったが今日もなおその権利を有しているのは混乱に紛れ既得権益にしまった事なののでしょうか、昭和 49 年に当家を建て替えた時関係文書は当家には無かったようです。

*釜沢石の盛衰

石加工品の出荷の最盛期は明治・大正そして昭和の前半までみたいです。釜沢石の墓石及び石造物に刻まれた年代での推測ですが、石材の運搬が困難な時代水路を使い新潟平野の弥彦神社参道の一部、山頂及び中腹の石鳥居、護国神社境内の石造物など等。

<弥彦山ロープウェイ山頂駅直下の大鳥居>

1904(明治 37)年 8 月の銘が刻まれております冬季間に雪の上を引きずり上げたであろうと推測されます・・・それにしても大変な作業だったでしょう(図 1)。

<山形県温海温泉 長徳寺「涅槃像、他石仏十数体」>石像制作は新潟市の石六石材他 1934(昭和 9)年、新潟市内より移設され現在に至る(図 2)。



図 1 弥彦山ロープウェイ山頂駅直下の大鳥居



図 2 山形県温海温泉 長徳寺の石仏

身近なところでは明治 30 年 6 月 30 日記(北越鉄道工事概況報告書)信越線の信濃川に架かる鉄橋の工事、多数の石工が工事に参加したということが記され石材の運搬にはトロッキを使い、川幅 472 M の橋脚を支える一大工事だったようです。川底を掘り下げ石を積重ねたとあり、材料石を切り出す村松町の石切場においても又大変な作業だった事と思われます。

この鉄橋は以後昭和 27 年に使用停止になり、有料道路が設置され不要となった石は地元越路町浦の方々にも無償提供されたようです 1998 年頃迄「浦鉄橋の橋脚土台部分の一部」に石材がまだ少し残って居たようとの事です。

石需要の衰退は 1970(昭和 45)年頃から輸入品の御影石が沢山流通するようになり石は忘れられた存在となりつつありました。時を同じくして 1972(昭和 47)年より釜沢石砂利砕石プラントが設置され営業を始めました。しかし 11 年後 1979 年 営業停止。当店もその会社から山の採石場の石材を大型トラッ

クで工場に運び入れてもらい石灯籠、敷石、積み石、庭石に加工し多くのお客様に買って頂きました。春先に工場前の敷地に山積みされた石材は秋にはほぼ無くなり、翌年の春先に又運び込まれるといったサイクルで楽しいものづくりをしたことを今も懐かしく思い出されます。材料がふんだんにあると注文をたくさん受けられると思いますが、現実には好事家の方々の要望に応えるため営業としてはあまり進みませんでした。熱心に工場を訪ねて来られ作業の様子仕上がり具合を楽しみにして下さった方々を思い出されます。近年の石加工は外国依存が相当進んで居り寂しい思いをしております。

*「石彫の道（せつやみち）」の事

釜沢石を使った彫刻群 1975 年頃から 1985 にかけて作品制作に励まれグリーンヒル長岡ゴルフ場の入り口脇、南蛮山林道の道沿いに 1986 年より完成した野外彫刻作品が設置されています(図 3)。主催者グループは 長岡在住の元井達夫様 他 11 名(県内在住の美術教諭の方々) 約 15 年の歳月を要してこれらの野外彫刻品が完成されました。今も皆様の目を楽しませてくれています。中越地震の折には相当な被害もありましたが現在は綺麗に復旧されております。



図3 石彫の道 彫刻群

作品制作に 私も参加させていただきました。学校教諭の先生方が夏休み期間に 10 日間ほど合宿をされ制作されました。村松町内の旅館に宿を取り昼は石と向き合い汗を流し夜な夜な慰労の酒宴が催されておられました。地元の石工達もその夜会に招かれ交流を深めることができました。グループの最後の作品は長岡中央図書館隣接交差点の所にある モニュメントです。高さ数 M で誰もが立ちどまり目に止まるところにあります。上部に縄文土偶を再現した顔のモチーフです。正面、背面とも違ったモチーフが彫刻されています。採石され早々に石膏模型で原型構想を出され

た元井様の発想に凄い御方だと思いました(石材寸法にピッタリと合わせたデザイン案)釜沢石の特徴をよく捉えた作品だと思っております。経年で黒いホコリ、カビが付着して現在は残念な外観ですが・・・釜沢石を愛し御指導頂いた元井達夫様は昨年他界されました。

*最近のボランティア活動

5 年程前より地元の小学校で出前授業をさせて頂いてボランティア活動に興味持つようになりました。初回は子供たちを町内のお寺境内に来て貰いそこで輸入されている石についての話をしました。

私らの時代と違って、子供たちはお墓参りの時以外はあまり立ち入らないとの話でしたが住職のご理解を頂き知らない方々のお墓にもお参りをさせて頂いてもらいました。

“クイズで出題“「このお墓石の産地はどこでしょう」私が持参の地球儀を指差して遥か遠く日本の裏側からこの石が運ばれてきていることに大変興味を持ってくれました。以後、いろいろなテーマで行いました。＜地域のこと釜沢石を知ろう＞、＜釜沢石旧採石場跡地への見学会＞、＜石臼で大豆、きな粉を作ろう＞、＜石の一輪挿しを作ろう＞。

学校長の特別な計らいがあり校内で子供達に 鉄ハンマーを持たせ石割式をし、後に各自が思い思いの傑作を作ってくれました(図 4)。

完成作品みんな違ってはいますがそれぞれ個性的な一輪挿しの花器が出来た時には生徒さんと共に私も嬉しかったです。



図4 地元小学生の作品作り

越路大地の会主催の夏休み岩石講座のお手伝いに 2 回参加させて頂いております。皆熱心な子供さん達で自分の仕上げたピカピカの石面を眺める笑顔が忘れられません。本年は中止かとも伺っておりますがコロナウィルス終息の後に再開されることを皆さんと共に心待ちにいたしたいと思います。

追悼

渡辺文雄さんが旅立って・・・

大地の会顧問 渡辺秀男

彼（渡辺文雄さん）の地学に関する業績を簡単に紹介します。大地の会では運営、講演会、観察会でめざましい活躍をされました。特に3Dに関する出版物は彼独自の開発した写真と編集により会員の皆さんはもちろん、多くの人たちから好評を博しました。ほかにも高校の地学クラブ、地学団体研究会、新潟県地学教育研究会でも斬新なアイデアから多くの創造的な業績を残しました。ほかに地震に関する自費出版物は普及書として県外でも話題になりました。以下、彼の人柄や科学に対する姿勢を忍ばせていただきます。

今年の4月末の彼の自宅で「もう俺には必要ないから、このハンマーを使って」、「どんどん力がなくなってもう新聞も読む気力もない」と、悔しさ寂しさをにじませていました。「いや、まだまだだよ」と言いたかったのですが、黙ってハンマーを譲り受けさせていただきました。

文雄さんと私の本格的な調査でのお付き合いはほんの数年前からです。私が津南の笹葉峰（見玉）の大規模地すべりの調査を引き受けましたが手に負えなくなり、地すべり専門家の文雄さんに助けを乞うことにしました。「あの大规模地滑りは前から興味があったのでいいですよ」、「ハンマーも買ったよ」言って、本気度を示してくれました。二人で調査しながらいろいろなことで共通点があることを知りました。

たとえばよく見るテレビ番組はNHK・BSの「英雄たちの選択」だったり、好んで読む本や雑誌は同じだったりして調査の間にいろいろなことで話の花が咲きました。

地質調査中、事実認識や推論の組み立て方でたびたび議論になりました。たいがいは頭脳明晰で秀才の文雄さんにねじ伏せられました。

私にはさわやかな敗北感でした。今思うと、彼の人間性にリスペクトしていたからだと思います。この調査結果は「津南学第8号の『渡辺文雄著：笹葉峰の旧期地すべりに関する覚書』」となり、彼最後の仕事となりました。最後の見舞いで私は思わず「早すぎて悔しいね」と言うと、「あなたが声をかけてくれたお蔭で、『津南学』に地滑りについて書けたよ」と言われ、彼の優しい気遣いに胸が熱くなりました。

彼の自然探求に対するこだわりにもびっくりしたこともありましたが、私と事実認識で違いがあり、彼が「もう一度問題の崖に地質調査に行こう」と誘いました。私が拒否すると彼は一人で再度調査に行き自分の正しさ確信したようでした。ただ、「津南ジオパークの研究報告書」は彼との連名でしたが、私の考えで執筆させていただきました。彼が亡くなり、今春いわくつきの崖（露頭）の観察に行きました。多分考えの一致はなかったと思いますが、もっと議論すればよかったと悔やみました。彼がくれたハンマーを見て地質調査をもう少しやってみようと思いが募り、岩石好きの仲間と地質調査を始めました。彼のハンマーを握るたびに彼の地質学への思いがわき上がってきます。

ここで話題にした「津南学第8号」は、「津南町教育委員会編、ほおずき書籍出版、価格1650円」です。長岡の書店でも置いてあるところがありますよ。



2018年春の野外観察会にて

【渡辺文雄氏略歴】

1949年長岡市生まれ
東北大学理学部地学第一学科卒業
地質コンサルタント会社勤務

（地すべり調査等）

新潟県内高等学校（地学）教諭

2008年長岡大手高校を最後に退職

長岡高専非常勤講師

大地の会顧問

著書：2つの地震を読むー中越と中越沖で何が起きたかー（雑草出版2008年10月）他

2020年5月ご逝去

賛助会員紹介

- 国際石油開発帝石株式会社
- 朝日酒造株式会社 ■有限会社越路地計
- 株式会社エコロジーサイエンス
- 大原技術株式会社 ■有限会社広川測量社
- 高橋調査設計株式会社
- オムニ技研株式会社
- エヌシーイー株式会社

順不同

大地の会会報 おいたち 101号

2020. 6. 20 発行

大地の会事務局

〒949-5411 長岡市来迎寺甲1381 永井千恵子

e-mail: koshiji@daichinokai.sakura.ne.jp

URL: <http://daichinokai.sakura.ne.jp/>

問合せ先

長岡市越路支所地域振興課教育支援係

担当 赤松ゆり子 TEL 0258(92)5910